PART1　再読文字

一

再読文字…最初は返り点を無視して副詞として読み、二度目は返り点に従って助動詞（動詞）として読む。

① **未**＝未(いま)ダ～ず／（まだ～ない）

（例）未レ還(かへ)ラ。　〔未だ還らず。〕（まだ戻ってこない。）

② **将・（且）**＝将(まさ)・（且(まさ)）ニ～ントす／（～しようとする・～しそうだ）

（例）将ニレ食セント。　〔将に食せんとす。〕（今にも食べようとする。）

＊「将」が再読文字ではないとき＝「はタ」（＝あるいは）や「もっテ」と読む。

③ **当**＝当(まさ)ニ～ベシ／（当然～すべきだ・～しよう）

（例）当レ帰(とつ)ガシムレ汝。　〔当に汝を帰がしむべし。〕（当然お前を嫁がせよう。）

④ **応**＝応(まさ)ニ～ベシ／（きっと～しよう・に違いない）

（例）応レ知レ之。　〔応に之を知るべし。〕（きっとこれを知っているに違いない。）

⑤ **宜**＝宜（よろ）シク～ベシ／（～するのがよい）

（例）宜レ従二汝ノ所ニ一レ適ク矣。〔宜しく汝の適く所に従ふべし。〕（おまえが行きたいところへ行けばよい。）

＊「宜」が再読文字ではないとき＝「むベナリ」と読み「もっともだ」の意味。

⑥ **須**＝須（すべか）ラク～ベシ／（必ず～する必要がある・しなければならない）

（例）須レ学。〔　　　　　　〕（　　　　　　　　　　　）

⑦ **猶・（由）**＝猶（な）ホ・（由（な））ホ～〔ガ・ノ〕ごとシ／（ちょうど～のようだ・と同じだ）

- V連体形＋ガ（…過ぎたるはなほ及ば**ざるがごとし**）
- 体言ノ（…春の夜の**夢のごとし**）

（例）今之楽、猶二古之楽一。〔今の楽、猶ほ古の楽のごとし。〕（今の音楽は、ちょうど昔の音楽のようだ。）

＊「猶」が再読文字ではないとき＝「なホ」と読み、「やはり・まだ・いっそう」と訳したり、「抑揚形」の文で使われる。

⑧ **盍**＝盍（なん）ゾ～ざル／（どうして～しないのか・～すればよいではないか）

（例）盍二以テレ疾ヲ辞セ一。〔盍ぞ疾を以て辞せざる。〕（どうして病気を理由にして辞退しないのか。）

問一　次の文を、返り点に従って書き下し文にせよ。

妾ハ宜下シク以レテ身ヲ薦二メ(すすメ)其ノ棺(くわん)槨(かく)一ニ、守リ-養中フ其ノ幼(よう)孤(こ)上ヲ。

注　棺槨…ここでは、棺桶に納められた夫のことを指す。
　　幼孤…幼い遺児。

問二　次の文は「禹は天下に溺(おぼ)るる者有れば、由(な)ほ己(おのれ)之(これ)を溺らすがごとしと思へり。」と読む。これに従って、返り点を施せ。

禹 思 天 下 有 溺 者 、由 己 溺 之 也 。

問三　「須」の意味として最も適当と思われるものを次の中から選べ。

ア　～であろう　　イ　～するだけだ　　ウ　～することが必要だ

問四　「病ミテ且死、…」の傍線部の　A　読み方と　B　解釈として最もふさわしいものを、次の中からそれぞれ選べ。

A　ア　まさにしせんとし　　イ　まさにしすべくして
　　ウ　よろしくしすべくして　　エ　すべからくしすべくして
　　オ　なんぞしせんとし

B　ア　少しの間、死んだようになって　　イ　死んだ方がましだと思って
　　ウ　今や死にそうになって　　エ　必ず殺されると思って
　　オ　それでも生きたいと望んで

問五　「当如此也ト。」の書き下し文として、最も適切なものを次の中から選べ。

1　当(まさ)に此(か)くの如(ごと)くなるべきなりと。
2　当(あ)たるも如(も)しくは此(こ)れにあらんやと。
3　当(まさ)に此(こ)れに如(し)くものあらんやと。
4　如(ゆ)くに当(あ)たりて此(か)くなるべきなりと。

問六「盍試一思之。」の　A　訓読と　B　意味について、正しいものを次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A　訓読

ア　けだし試みに之を一に思ふ
イ　なんぞ試みに一たび之を思はざる
ウ　いはんや一たび之を思ふことを試みんや
エ　まさに一に之を思ふことを試みんとす
オ　あに一を試みて之を思はんや

B　意味

ア　ましてや一度はこのことを考えないことがあろうか
イ　いったい一つのことを試してこのことを考えようか
ウ　これからひたすらこのことを考えるのを試みてみよう
エ　どうしてこのことを一度試みに考えてみないのか
オ　おそらくもっぱらこのことを考えようと試みるであろう

問七　「当ニ為レ子沽レ酒。」を書き下し文にせよ。

注　沽…買う。

問八　「甘(かん)茂(ぼう)亡(ゲ)レ秦(ヲ)、<u>且之斉、</u>…」の傍線部をひらがなのみの書き下し文にせよ。

注　甘茂…秦の宰相。
　　斉(せい)…地名。

問九　「不 当 発 悪 願。」を漢字ひらがなまじりで書き下せ。

第2講　PART1　確認問題

①「唯(た)だ春江の看(み)れども未(いま)だ厭(あ)かざる有り。」と読むには、返り点はどのようにつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　唯　有二春　江　看一レ未レ厭。
イ　唯　有二春　江　看　未一レ厭。
ウ　唯　有三春　江二看　未レ厭。
エ　唯　有三春　江二看　未一厭。

②「当二相　取一也。」は「どうしても（あなたを）つかまえなければならない。」という意味である。どのように読むのが正しいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あひとるにあたれるなり。
イ　まさにあひとるべきなり。
ウ　よろしくあひとるべきなり。
エ　まさにあひとらんとするなり。

③「猶」は「なホ〜ごとシ」と読む再読文字の一つである。再読文字でないものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　応　　イ　遂　　ウ　宜　　エ　須

④「将有重賞。」をひらがなで書き下した文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　もちひてしやうをおもんずるあり。
イ　もつてぢゆうしやうあらんとす。
ウ　ひきゐてぢゆうしやうあらんとす。
エ　まさにぢゆうしやうあらんとす。

⑤「盍三各(おのおの)言二爾(なんぢ)志(こころざし)一。」の訓読として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　まさに各爾の志を言はんとす。
イ　まさに各爾の志を言ふべし。
ウ　なんぞ各爾の志を言はざる。
エ　よろしく各爾の志を言ふべし。

第２講　PART1　解答

一　⑥〔須らく学ぶべし。〕（学ばなければならない。）

問一　妾は宜しく身を以て其の棺槨に薦め、其の幼孤を守り養ふべし。

問二　禹 思㆘天 下 有㆓溺 者㆒、由㆗己 溺㆖之 也。

問三　ウ

問四　Ａ　ア　　Ｂ　ウ

問五　１

問六　Ａ　イ　　Ｂ　エ

問七　当に子の為に酒を沽ふべし。

問八　まさにせいにゆかんとし、

問九　当に悪願を発すべからず。

第２講 PART1 確認問題 解答

〔解説〕

① 返り点のついている順番で読んでいき、読み方が同じになるものを選ぶ。再読文字の「未」は「未ダ～ず」と読む。問題文中では「有り」に続くように「未ダ～ざル」となっていることに注意する。

② 訳から、「当」は再読文字として、「まさニ～ベシ」と読むべきことがわかる。よって、イが正解。

③ イ「遂」は「つひニ」と読む副詞。ア「応ニ～ベシ」、ウ「宜シク～ベシ」、エ「須ラク～ベシ」と読む再読文字。

④ 「将」は再読文字で「まさニ～ントす」と読む。よって、エが正解。「将」は再読文字以外で他の読み方もあるが、問題になっていれば、まずは再読文字から考えよう。

⑤ 「盍」は再読文字で「盍ゾ～ざル」と読む。よって、ウが正解。

〔解答〕

① イ　② イ　③ イ　④ エ　⑤ ウ